

ごみの処分場では何をするか？

23区からでるゴミは、中間処理施設から中央防波堤（埋め立て処分場）に運ばれます。1977年10月から埋め立てが始まり、2024年までで約5541万トンが運ばれました。

ごみの処分場では何をするか？

新しい処分場の新海面処分場は、1998年12月から焼却灰（ゴミを燃やしたあとの灰）の埋め立てを開始し、2024年3月の間に約963万トンのゴミが埋め立てられています。新海面処分場は、東京湾に作ることでできる最後の埋め立てられる処分場です。

最終処分場のしくみ

最終処分場は、広い土地に作られます。雨が降ると水がしみこみ、ゴミの中の汚れや、灰などに含まれる有害な物質の溶けた水（浸出水）が流れる心配があります。そこで、処分場の底に水を通さないシートを敷き、その上にパイプを敷いています。

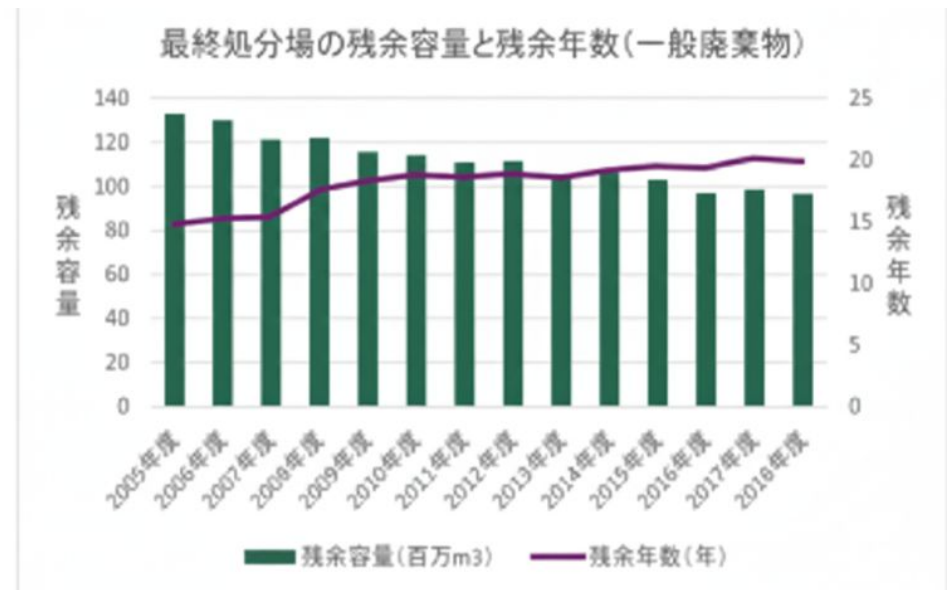
最終処分場のしくみ

処分場の底に水を通さないシートを敷き、その上にパイプを敷いて処理施設に流し、そこできれいにしてから川などに放流しています。ゴミの中の生ゴミや紙などが分解すると、埋め立てガスが発生します。



最終処分場の寿命

日本の最終処分場の残余年数は、環境省の発表によると一般廃棄物で約24.8年（2025年3月時点）、産業廃棄物で約19.7年（2022年実績）です。



最終処分場の寿命

この数字は、リサイクル率の向上や廃棄物排出量の現象により年々わずかに延長傾向がありますが、特に都市部では、土地の確保が難しく、平均残余年数は短い状況にあります。

